

「主体的・対話的で深い学び」をどう進めるか

1 研修内容(概略)

(1) 今、求められている学びの背景を知る。

産業基盤社会(正解と効率を求める社会)から知識基盤社会(納得解と最適解を求める社会)へと社会が変化している。学校は社会の変化に対応して、児童生徒に正解を求めるための知識を身に付けさせることに加え、正解のない課題を解決していこうとする資質・能力も身に付けさせることへと学力観を変えなければならない。「正解+納得解+最適解」を求める資質・能力を育成していくためには、「主体的・対話的で深い学び」が必要である。

(2) 教師が生徒になりきり問題解決を体験する。

「連続する3つの整数のうち、最も小さい整数を n とすると、3つの整数は、 n 、 $n+1$ 、 $n+2$ 、と表せる。すると、 $n+(n+1)+(n+2)=3n+3=3(n+1)$ から、連続する3つの整数の和は3の倍数になる。では、連続する3つの整数の和について、3の倍数であることのほかに言えることは何か。」という問題を全教師で取り組む。

(3) グループ毎に最適な解を探求する。

$n+(n+1)+(n+2)=3n+3=3(n+1) \rightarrow 3$ の倍数であることは分かった。これ以外に言えることはなんだろう。 $n+1$ は真ん中の数だから、連続する3つの整数の和は連続する3つの整数の真ん中の数の3倍だ。

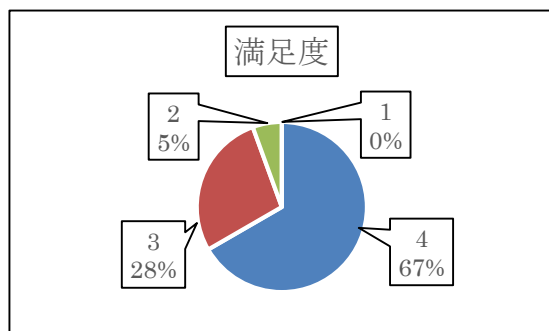
連続する3つの整数の真ん中の数を n とすれば連続する3つの数は、 $n-1$ 、 n 、 $n+1$ と言える。 $(n-1)+n+(n+1)=3n-1+1=3n$ とすればもっと簡単だ。人との協働作業で様々なアイデアに触れることができる体験をする。

(4) 深い学びを体験する。

「それなら、連続する4つの整数の和は?」「じゃ、連続する5つの整数の和は?」「6つは? 7つは?」と問いを連続させることが深い学びにつながる。キーワードは「それなら、 $\bigcirc\bigcirc$ は?」「じゃあ、 $\bigcirc\bigcirc$ は?」だ。

2 研修の評価

事後アンケート項目「研修内容に満足できましたか。」(4段階評価で1が不満足、4が満足)の結果、満足度(3、4選択)は95%以上でした。



【グループ毎の発表の様子】